



シルバー インフォメーション ルーム

神戸市東灘区本山北町6丁目2-13

電話(代表) 078(431)6008

FAX 078(431)6008

1994年 3月 発行

第 1 号

## 開設からの歩み

シルバー インフォメーション ルーム

坪(あくつ) 光子

私共、シルバー インフォメーション  
ルームも開設から、はや9カ月が経過しま  
した。

高齢化社会が進む昨今ですが、やはり、  
私共の年齢になりますと、自分のまわりを  
見ましても、両親、舅姑の介護で心を悩ま  
せておられる方がたくさんおられます。家  
庭でお年寄りを世話することは大変な事で、  
一人では到底出来ることではなく、家族や  
回りの者の理解や手助けは勿論の事、公的  
サービスや地域の助け合いが必要です。そ  
うした人達の為に、様々な情報を提供する  
事により、介護をしておられる方、悩んで  
おられる方の苦労を軽減出来ればと考える  
この仕事を始めました。

開設までには、専門家の先生方、老人福  
祉に携わっておられる方々、介護で大変苦  
労された経験者などのお話を聞き、アド  
ヴァイスを頂きながら、一方で、メンバー  
が手分けして20数カ所の施設を見学し、  
自分たちの感想を含め、報告し合い、資料  
収集に努力して参りました。また、開設に  
当たっては、新聞記事に取り上げて頂いた

り、案内書を作成し、多くの困っておられ  
る方々に知って頂きたいと、宣伝に努めて  
参りました。

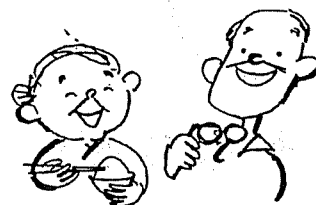
開設後も、ケース検討をしながら、互い  
に確認したり、充実したお応えが出来るよ  
う努力しております。月一回の勉強会も、  
各分野の専門家を講師にお招きして、公開  
学習会を開催し、同時に数回の施設見学を  
行いました。活動を始めてから、多くの方  
々にご助言を頂戴し、ご協力頂きまして、  
心より感謝致しております。その中で、公  
的サービス従事者、介護機器メーカー、施  
設関係者、他のボランティア団体の方々と  
の連携も深める事が出来、私共のネットワ  
ーク作り到大変役立つこととなりました。

昨年9月末に、しあわせの村で開催され  
ました《こうべ福祉フェア》の中の福祉機  
器展で「相談コーナー」を、11月末には  
関西の百貨店では唯一福祉機器展示コー  
ナーのある阪急百貨店ハートニングハウスで  
3日間「相談室」を各々開き、電話と対面  
で相談を受け付けました。現在、1994  
年2月末で延べ250件以上の相談があり

ます。私共は、既にお年寄りの世話で長年苦勞した経験者や、現在介護している者、介護のための学習会に参加した者、施設などで実習を積んでいる者、いろいろな福祉の現場で働いている者など、それぞれ研修を積んでおりますが、相談を受ける中で、ケース検討の場で、さまざまな家庭状況や家族を知ることにより、よりキメ細かい対

応が出来るよう努力しています。

これからは、相談記録をまとめ、公的サービスの向上の為に提案していくと共に、一人でも多くの方が、身近なお年寄りの為に、何かを考えて行動を起こせるような地域社会の仲間作りに役に立ちたいと願っています。



開設からの **公開学習会** の歩み

平成5年6月28日	「老人の在宅介護の問題点」 「訪問看護の現状」	医師 若松 春彦氏 宮地病院訪問看護センター
		医師 芦田 千尋氏 看護婦 近藤 孝氏
7月19日	「福祉機器の選び方、使い方」	民間救急サービス 白石 筆雄氏
8月23日	「お年寄りの相談と援助を通して」	CW 春本 幸子氏 医師 野津 浩氏
9月 6日	「精神科医の立場から」	ITS
10月 4日	「訪問看護の経験を通して」	保健婦 千浦 淑子氏 栄養士 伊藤 敏江氏 栄養士 西部 明子氏
11月 1日	「高齢者の食事と食事介護」	東灘福祉事務所 所長 松田 安修氏
12月13日	「安心すこやか窓口」 について	東灘保健所 精神保健相談員 奥山 基子氏
平成6年1月10日	「痴呆性老人とその家族の 援助の現状について」	関西大学 教授 松原 一郎氏
2月10日	「高齢化社会と介護 これからの高齢者ケア政策」	菊川内科、神経内科医院 医師 菊川 豪氏
3月12日	「高齢者の精神症状 その背景とケアの仕方」	

シルバー インフォメーション ルーム

## 開設一周年にあたって

顧問

精神科医師 若松晴彦

昭和53年初春、開業したての私の診療所に、Fさん（大正2年生まれ）は、その妻（大正6年生まれ）を連れてやって来た。彼女はアルツハイマー型痴呆で、当時60才。56才頃発病し、大学病院にて確定診断を受けていた。Fさんの愚痴の数々。

「先生、このボケを《治すなら、早く治す》、《だめなら、早く片付ける》と、もうどちらでもよいから、とにかく早く決着を付けて下さい。」

「精神病院にも入れてみた。しかし、若い人にいじめられ、体中痣だらけ、あまり可哀想なので、連れて帰った。」

「同居していた長女一家は、《私達の生活が大事》と、ニュータウンへさっさと引っ越してしまい、我々二人が取り残された。寂しい、寂しい。」

気晴らしに喫茶店に入っても、ぼそぼそ言っている妻を見て、他の客は気持ち悪がる。仕方なく隅の方で小さくなっている。この妻を遠慮せずに連れて行き、仲間とお茶を飲みながら、本音で愚痴が言える場所を何処かに作って欲しい。」

昭和58年5月、須磨保健所に痴呆老人家族教室を開設したのは、Fさんの懇望と、精神保健相談員の奥山さん（現東灘保健所勤務）の努力の結果である。

しばらくして、家族教室の話題の中で、ぼけ老人を抱えているが、教室に出席できない人から次のような事が伝わって来た。

「家族教室に出席できるのは恵まれた人達だ。私は《ぼけさん》と二人、教室に連れて行けば、じっとしていない《ぼけさん》だから皆に迷惑をかける。と、家内一人置いて行けない。せめて私が教室に出席している間だけでも、《ぼけさん》を預かってくれる所はないだろうか!？」と。各種のボランティア団体に相談もしてみたが、当時、《ボケさん》を預かってくれる所はなし。ショートステイも、ようやく神港園（西区）で始まったばかりの頃である。

この訴えが、昭和61年からのデイサービス《かよう会》に発展した。その後のぼけ老人に対する各種行政サービスの拡充には、目を見張るものがある。特別養護老人ホームは次々と新設され、ぼけ専用20%が義務づけられ、そして、ぼけ専用特別養護老人ホーム《しあわせの家》の誕生。デイサービスも各区、1～2ヶ所(1～2の区では、住民の反対により、いまだ開所できていないが)。多くの病院で行われているデイケア、そして昨秋からの《あんしん・すこやか窓口》での行政側窓口の一本化と今の時代に前述のFさんがいたら、どんなに彼の人生の手助けになった事かと思われる。

シルバー インフォメーション ルームも、間もなく一年目の誕生日を迎えるとの事、メンバーの方々は非常に秀れた素養とその後の研鑽により教養を完備された人々

である。この約一年間の各種各様の相談の経験から一層磨きがかかり、今後の相談内容に《深み》を加えて頂くのは当然として、今一步進んだ《より踏み込んだ実践》を志して頂きたいと、以前にも増し期待しています。

らのみでなく、病人の立場を大切にしてください。診療に当たっておられます。その、先生の心が老人の生きる意欲を支え、介護する家族を勇気づけ、まだ手付かずであった日本のボケ老人の医療に目を向けるきっかけとなりました。

著作も多く、柔らかい語り口で老いることの淋しさ、厳しさ、その現実を説き、誰もが迎える老いをもっと身近なこととして考えるよう示唆されました。

今回、先生をお迎えできることになりましたのは、ひとえに先生のご厚意と、老人医療への情熱によるものです。先生の豊富なご経験の中から、私共のインフォメーション活動のヒントをたくさんお教え頂けるものと期待しています。

お一人でも多くの方々のご参加をお待ちしています。

開設一周年記念講演会  
「いきいき 生きる」

と き： 平成 6年 4月16日  
ところ： 神戸市立東灘区民センター  
「うはらホール」  
JR住吉駅下車南徒歩2分  
☎(078)822-8333

早川一光先生は、日本で初めて老人医療、中でもボケ老人に目をむけ、医療の立場か

ごくふつうに、暮らせるしあわせ。

自立・介護ベッド/スタンドアップ  
チェア/リフト/床ずれ防止用具  
トイレ用品/入浴用品/ウエア/食  
器/車椅子/電動車/歩行用品/ス  
テッキ/リハビリシューズなど  
手すり一本から改築まで  
快適環境づくりのオーダーも承ります。



阪急ハートニングハウスには、その他、キッズシッタールーム、スキンケアルーム、補聴器ルームがございます。

阪急ハートニングハウス  
自立・介護支援ルーム

阪急百貨店 大阪・うめだ本店3階  
(06)367-2397・2398

突感劇場1994  
お客様側。

大阪・うめだ  
阪急

全館10時～7時(木曜定休)  
大阪市北区角田町8番7号  
〒530 電話(06)361-1381

阪急東宝グループ

## 相談記録から

昨年6月に開設してから2月末現在で、相談件数は250件余りとなりました。相談内容は多岐にわたり、年々深刻になる在宅介護の現状が伺われます。

- ・ 夫婦二人暮らしで、夫が病気になり少し痴呆も出て来た。私も年で、介護が大変。どうしたらよいか分からない。
- ・ 実家の親を介護しているが、家族の理解が得られない。
- ・ 嫁の立場で、夫の両親を介護している。自分が病気になった。家族の協力が得られないため、心身ともに疲れている。
- ・ 病気で入院していた母が、痴呆が出て来て、退院を勧められている。家族が介護出来る状態でない。
- ・ 家庭で介護しているが、負担を軽くするための介護用品を教えてほしい。
- ・ 一人暮らし。体調が悪いとき、夜が不安。泊まってくれるヘルパーを教えてください。
- ・ 母親を介護している男性。仕事と介護の両立が困難になって来た。よい施設はないか。
- ・ 隣に住む一人暮らしの親の介護をしている。家族の団欒がなくなり、家庭崩壊の危機にある。

- ・ 妻が腰痛、脚の骨折等で、入浴に介助が必要。よい方法はないか。
- ・ 痴呆の進んでいる父が暴力をふるって、母が困っている。ショートステイに行っても、迷惑をかけるので断られる。

これらの相談内容に応じて、公的、民間の各種サービス、病院や施設、介護用品、在宅介護についての相談等に、電話や文書で、或いは、来所いただいております。

施設入所を希望しても、数が少なく、なかなか入れない。

高齢者福祉施策について、詳しく分からない。

在宅介護では、特に女性に負担がかかり介護者の健康や家族関係に問題が多い。

等、在宅の高齢者とその家族が十分な援助を受けられず、家庭で苦悩する姿が浮かび上がって来ます。

私共は、これらのケースを自分の問題として捉え、幅広い、正確な情報の収集を図っていきたく思います。

賛助会員 を募集しています

賛助会費 : 一口 1,000円

申し込み先 : 郵便振替 1-54173

シルバー インフォメーション ルーム

坏 光子

ご協力をお願いいたします

## 福祉フェアに参加して

1993年10月15日から3日間、神戸市北区のしあわせの村において〈福祉フェア〉が開催され、私共は相談コーナーとバザー出店で参加しました。

体育館での福祉機器、介護用品展示場の一角に、市の法律相談所、ライフケア協会と共に相談コーナーを設けました。車椅子で来られたお年寄りとそのご家族、また、在宅で介護をしておられる方が相談に来られました。それぞれ、苦勞話に耳を傾け、ご相談に応じて、公的サービス、各種老人ホーム、福祉機器、介護用品等を紹介し、込み入った内容については持ち帰って調査の上、お伝えしました。

最終日、戸外緑地帯にテントを張ったバザーは、開始前から大勢並ばれ、メンバーの持ち寄った手作りの品々が飛ぶように売れ、短時間で完売となりました。

この収益は、無料でご相談をお受けし、情報を提供するために必要なコピー代、郵送料、資料収集のための費用、研修費等、運営費の貴重な財源となります。

私共も交替で、普段見られない大型介護機器を見るだけでなく、体験使用が出来、また、障害者のための住宅設備、電子機器等も知ることができ、よい勉強になりました。広々として、緑多く、美しい〈しあわせの村〉に、公的機関、民間企業、障害のある人、その家族、そしてボランティア等が一堂に参加することにより、福祉の意識を高め、それぞれが共に生きるという実感

## 出張相談所開設

11月26日から3日間、阪急百貨店の要請で、介護用品コーナーに相談窓口を開設しました。デパートの催し物の一環として、直接営利に結びつかない、このような相談窓口が開設されたことは画期的な事ですし、大変有意義な事だったと思います。また、阪急百貨店としても、初めての試みであったにもかかわらず、その成果と反響の大きさに驚かれたとの事でした。

相談件数は、対面、電話を合わせ、3日間で25件でした。内訳は表に示しますが、開設場所が福祉機器のコーナーであった事もあり、介護用品の相談が多くありましたが、在宅での介護の不安や不満、施設についての相談、利用方法の問い合わせ等でした。

いつも痛感している事ですが、これだけいろいろな情報が溢れていると思われるのに、本当に必要で適切な情報を提供してくれる所が少ないという事です。障害のある老人を抱え、時間的、物理的、そして精神的にもゆとりをなくしている方、もっとよい方法を、と考えている方、今回もそのような方に多く接し、シルバーインフォメーションルームの意義を再確認し、新たな決意をもって、より一層の充実を図りたいものと思っています。



## 相談内容統計

1993年 6月1日 より 1994年 2月28日まで

		介護者 201	被介護者195
年齢	20代	2	0
	30	4	0
	40	27	0
	50	33	3
	60	9	9
	70	9	44
	80	7	71
	90	0	27
	不明	110	41
性別	女	167	108
	男	34	64
	不明	0	23
続柄	本人	5	
	息子	19	
	娘	71	
	嫁	35	
	夫	9	
	妻	13	
	その他	6	
	不明	43	

相談内容	
ショートステイ	52
デイケア	31
老人保健施設	28
特別養護老人ホーム	16
その他老人ホーム	7
老人病院	28
入浴サービス	17
訪問看護	16
ヘルパー	61
介護用品、機器	54
その他 公的機関、住宅改造、 給食、法律相談等	70

同居者	
有	109
無	33
不明	53

## 出張相談 阪急百貨店ハートニングハウス

1993年11月26日 より 28日 まで

相談内容	延べ相談件数
施設紹介	12
介護用品	13
デイサービス	4
ショートステイ	4
ヘルパー	6
入浴サービス	2
給食サービス	2
その他	3
計	46



多くの方々から、ご支援のお申し出を頂きました。厚く御礼申し上げます。相談活動に有効に使わせて頂きます。有難うございました。

《賛助会員》

(順不同、敬称略)

- |       |                       |       |      |
|-------|-----------------------|-------|------|
| 奥山基子  | 中谷和司 (朝日新聞神戸支局)       |       |      |
| 堀口淑子  | 大江克芳 (協和ガスサービス株式会社)   |       |      |
| 大江哲也  | 龍宮株式会社                |       |      |
| 片山奈知恵 | 在田潤三 (第一綿業株式会社)       |       |      |
| 都築いく子 | 横田茂清 (川本縹帯株式会社)       |       |      |
| 長谷川 倫 | 細井隆司 (株式会社サンルーム)      |       |      |
| 奥戸得子  | 山口俊之 (阪急百貨店ハートニングハウス) |       |      |
| 尾美澄子  | 白磯辰知 (サンテレビジョン)       |       |      |
| 岩佐康子  | コーヨー株式会社              |       |      |
| 川上 譲  | 野津 浩 (野津医院)           |       |      |
| 松田直美  | HAN'S 株式会社 汎コーポレーション  |       |      |
| 竹山汀子  | 小林公江                  | 川上八重  | 布垣明子 |
| 堀口淑子  | 柴原陽子                  | 坂野恭子  | 川村昌子 |
| 植松素子  | 川那辺裕子                 | 赤松恵美子 |      |

《ご寄付下さった方々》

(順不同、敬称略)

- |      |       |      |      |
|------|-------|------|------|
| 落合重信 | 大門英作  | 春本幸子 | 中島洋子 |
| 坪光子  | 川那辺裕子 | 岩佐康子 | 江藤幹枝 |
| 松原一郎 | 宗義朗   | 天句昭夫 |      |

「櫻」 発刊にあたって

私共シルバー インフォメーション ルームは一周年に当たり、ニュースレターを 発刊することになりました。場所は阪急岡 本駅から北東へ徒歩5分位の所にあり、裏 に、昭和49年3月30日に《市民の木、第 2号》に指定された、大きな櫻の木があり ます。それに因み、「櫻」と名付けました。

題字は、日展書家、金井千桂先生にお願 い致しました。

お近くへお越しの節は、櫻に抱かれたル ームをどうぞお気軽にお訪ね下さい。

